

2011年7月27日

## 「ギャラリー稲童便り」 No.1

おかげさまでギャラリー稲童は、皆様に支えられて満1周年を迎えることが出来ました。これを機会に「ギャラリー稲童便り」と称し、折に触れ、御報告を兼ねて皆様にお届けいたします。

設立総会以来、初めての協力会総会を開催しました。6月25日（土）に50名を超える協力会メンバーの皆様においでいただき、この1年間の活動報告と決算、並びに今年度の活動方針案と予算案を承認して頂きました。（予算、決算の内容はホームページに掲載しています）



この日、「東日本大震災救援チャリティーコンサート&オークション、フリーマーケット」も執り行いました。チャリティーコンサートではオカリナ演奏グループ「フレンズ」の皆さんが懐かしい曲を演奏してくださいました。また、オークションでは皆様のご協力で26万8千円もの資金を「東日本大震災子ども未来基金」に送ることが出来ました。



### 【ギャラリー展示について】

開館記念展示として、まずは原田脩のマスターピースを展示することに決め、その選別を門司港アート村（現在は門司港美術研究所と改称）の川端村長にお願いしました。50号の大作10点と、小品約20点を先ず選定しましたが、そのおり、故大迫忍ゼンリンオーナーの保有する「羽黒山五重塔」を描いた作品を飾りたいとの意見が出て、大迫未亡人に拝借をお願いしたところ、快く貸し出していただき、ギャラリー中央に展示することが出来ました。この作品はそののち、大迫未亡人が「この絵はどうぞギャラリーに置いてあげてください」と寄贈してくださいました。

最初の展示替えは、初回の展示の考え方とほぼ同じく、1回目に展示できなかったいわば「マスターピースその2」を選抜しました。

第3期の展示替えは、原田脩の画歴を辿ろうと、初期のものを交え、比較的多彩な作品となるように展示しました。原田脩の白一色の滝の作品に行きつくまでの作品群を揃えました。東北の名刹、信州の名瀑など、「旅する絵描き」原田脩の足跡を偲んで頂けるようにも心がけました。原田美恵子さんが新たにキャプションを書いてくれました。絵とキャプションの対比も楽しんでいただけます。この展示は9月後半まで延長します。

## 【イベント】

最初の本格的な催事は11月の舞台披きでした。舞台披きには国の重要無形文化財総合指定保持者、観世流シテ方の坂口師、幸流小鼓方飯田師に来ていただき、「能へのいざない」と題してお能の入門教室を開催いたしました。お二人の内容の濃い、しかもユーモアに富んだ説明に100人を超える皆様が大いに盛り上がりました。



11月にギャラリー貸し出しの第1回目として「青いバケツの会—小倉高校美術部OBと原田脩ゆかりの作家たち—展」を開催し、美術部OBが多くの作品を寄せてくれました。ギャラリー完成楽しみにしながら、昨年4月に心臓麻痺のため急逝した三井さんの作品も展示されました。

## 【今年度の活動方針】

9月10日(土)に恒例の観月会を開き、今回は作家・書誌学者の林望先生に講演をしていただく予定です。この講演会は行橋市教育委員会の後援をいただきました。



展示替えの期間を有効に活用して、ギャラリーの一般への会場貸し出しも行ないます。ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

地元の教育委員会への働きかけや、各種創作団体・特に志を同じくする門司港美術研究所との連携などにも取り組んでまいります。

原田脩の作品を、最良の状態で保管するため、収納庫に空調装置を設置しましたが、展示作品を紫外線から守るための対策なども講じます。更には、もっと多くの作品が見たいという声に対処するため、収蔵する多くの小品油彩や水彩画・デッサン等もスタンド式パネルを新設するなどして、出来るだけ多く展示するよう工夫します。

創作活動のスペースとして、あるいは、原田脩の小品、特に膨大なスケッチを展示するためのギャラリーアネックス(別館)を増築することが近い将来の夢です。この夢に終わらせないための方策を、今年度は総合的に検討してまいります。

このギャラリーは、協力会会員を中心とした有志の物心両面にわたるご支援とボランティア活動で運営されています。一人でも多くの方の参加をお願い申し上げます。

なお、ギャラリーに隣接している大人の遊び場『休癒処よ太郎庵』、および露天風呂などについては次回のギャラリー便りでご報告いたします。

以上